

魔法のワンドプロジェクト
地域セミナー東京会場
研究実践 中間報告

アセスメントを基に進める就労移行支援
～支援ツールとしてのiPhoneの活用～

東京都立港特別支援学校
佐々木 敏幸

東京都立 港特別支援学校

< 平成26年度研究テーマ >

「就労への移行支援を意識した
作業学習や日常生活等の指導と連携」
～TTAPを利用した自閉症生徒へのアプローチ～



アセスメントを元にして、**具体的な支援の方法を考え実行**してみる。

- ・**構造化**
- ・**支援ツールの開発** (タブレット型情報端末)

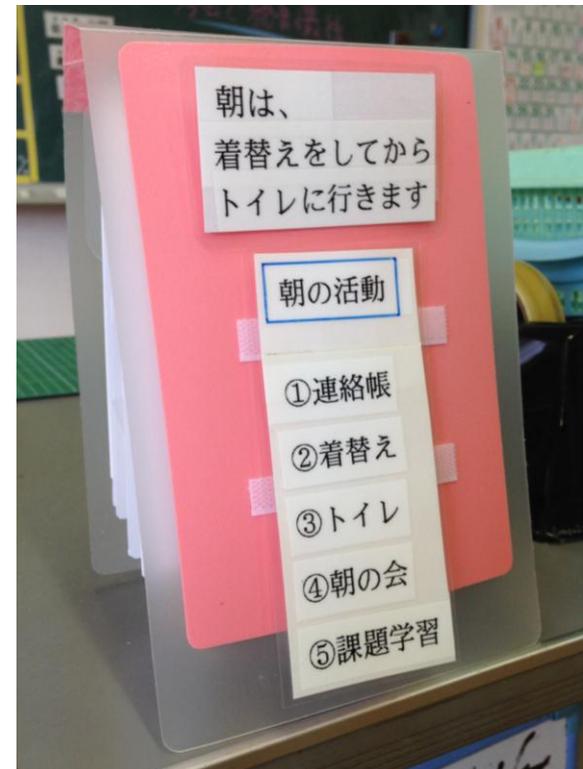
研究対象生徒の状況

高等部 自閉症

- ADL面は概ね自立
- 失敗経験
- 義務感で行動する傾向
- 否定的な指示や間違いの修正に対する拒否反応
- 行動障害がある
- 視覚優位（文字情報の受信）
- その他（音に対する過敏等）

研究対象ケースとしての選定理由

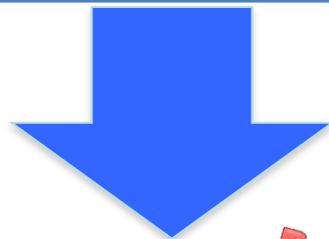
- 成功体験と**コミュニケーションスキル**の乏しさ
➔ 総体的な**自閉症の障害特性**による困難
- **行動障害**
- 視覚的な情報の優位
(特に**文字情報**)
- 作業能力の高さ



目指す姿と研究の展望

卒業後の**就労**および**社会生活**に向けた...

- コミュニケーションスキルの向上
- 行動障害の減少
- 得意な職業的スキルを生かした作業能力の向上



iPhoneを活用

①行動観察による実態把握を通じて 入学当初～5月第2週

・ 集団生活への適応

指示伝達や禁止事項の**情報**
伝達ボードの活用(PECSより)



学校の生活サイクルへの適応

- プrintの代替



日課表は**個別の**
ホワイトボードへ

- 興味関心に応じた作業的な要素の課題



自作の**個別課題**(約30)

② TTAP アセスメントの実施

TEACCHの就労に関する移行アセスメント。自閉症スペクトラム障害の障害特性を明確にし、より本人のスキルに合わせた就労支援を展開していくアセスメントツール。

直接観察尺度の検査の実施（5月15日）

（職業的能力を中心とした客観的視点の検査）

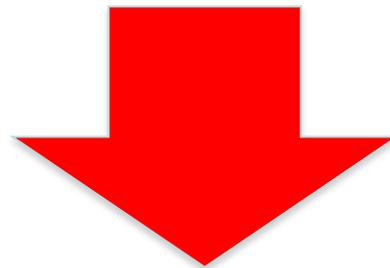
実施者：縄岡好晴氏（千葉発達障害者支援センターCAS）

アセスメントの具体的な内容：

フィルムケース組み立て・ボルトとナットの組み立て・旅行キッドのパッキング・PC入力・封入・自販機で好きなジュースを買う... 及び それらの行動観察

アセスメント実施以降 の指導(支援)に向けて

- 言語指示よりも視覚認知に働きかける(伝達)
- 課題が達成するまで見守る(対応)
- 環境(視覚・音・空間)の構造化
(物理的構造化による再評価)
- ICT機器の活用(学習支援)
- 事前にルールを示し、できたら褒める経験の積み重ね
(正の強化)
- 問題行動の経験を積ませない(予防としての対応)



提案：ワークシステムの導入

- 視覚的な支援を基に、自分で行動(学習)する
 - ➡ 自立した活動時間をつくる(増やす)
- 報告カードを用いる(終わったらカードで報告)
 - ➡ 「言葉」は見えない。見える具体物で伝達の行程を視覚化・・・報告する職業意識
- 学習環境の構造化
 - ➡ 視覚的に理解しやすい環境

「自立」のために...

ワークシステムにおいては、次の
4ステップで取り組む

- ①いつ
- ②どのくらい
- ③終わりはどこか
- ④終わった後にどのようにするのか

禪問答!?

③ アセスメント実施以降に行う支援 5月第3週～



ボルトの組立



ナット・ワッシャー・ボルト組立



蝶ねじ(大～小)の仕分けおよび組立



ナット・ワッシャーの操作



ナットの仕分けおよび組立



数字の分類と空間の認知

職業能力を高めるための作業的な個別課題の開発

朝の「職業」(毎日9:20~9:55)での ワークシステムの導入

一つ一つの課題の達成に繋がりを付けて取り組めるようにし、最後に報告する。

「自立」
した時間の確立



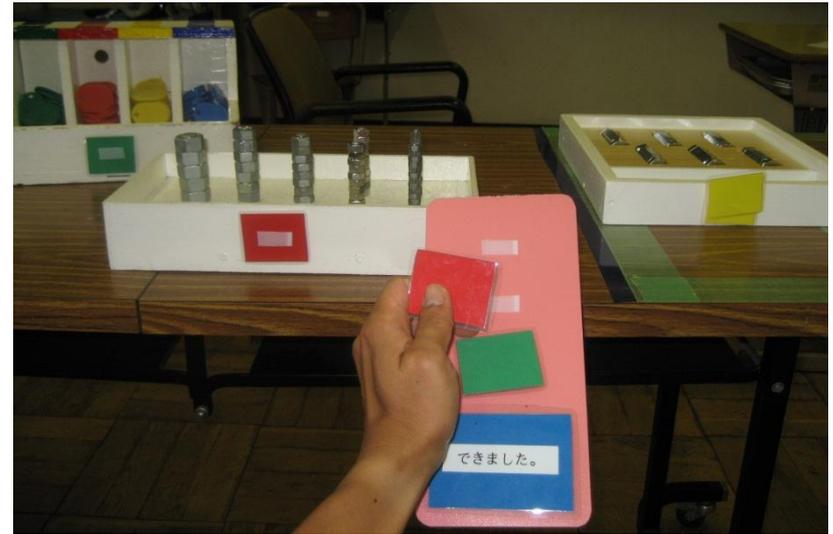
次に何をどうすればいいか、自分で考え行動すること。

「できるんだ!!」という成功体験の積み重ねが、主体的な行動の基礎となり、職業能力へと繋がる。

実際に作ったワークシステムボード (制作したのは、これ一つだけ!?)



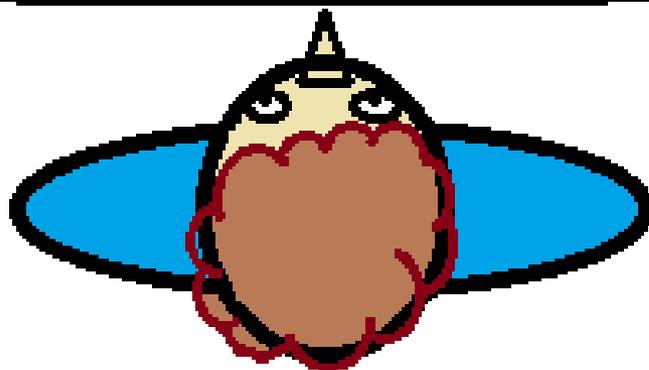
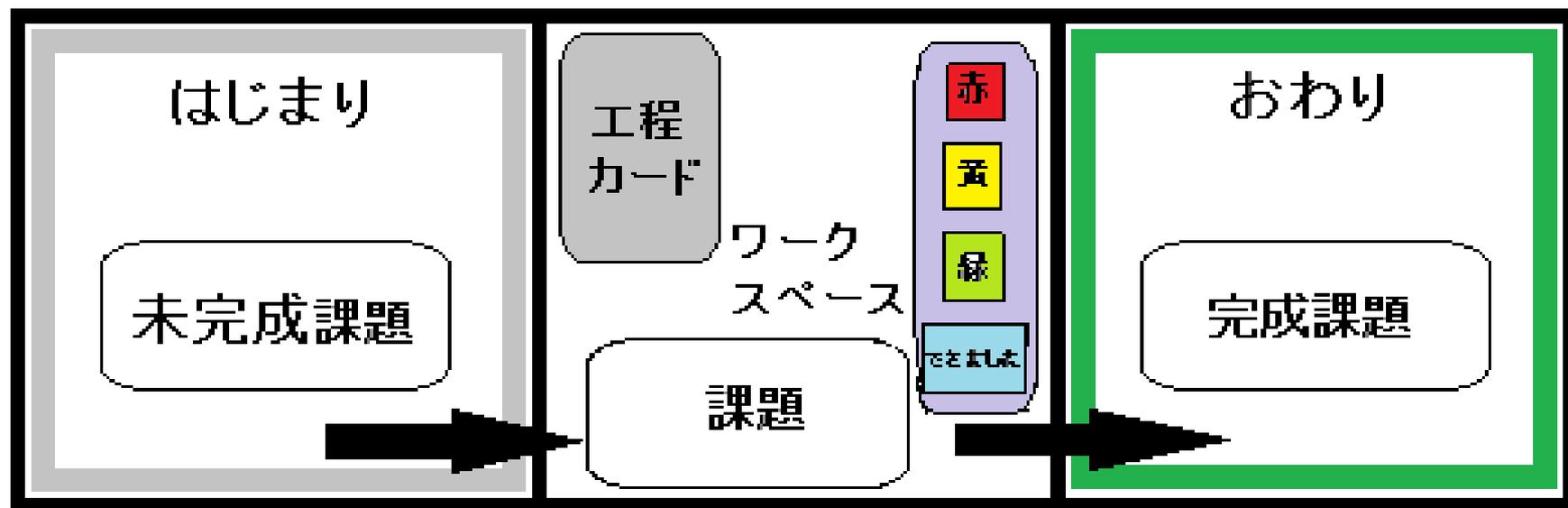
上から色カードで手順を示し、最後に報告カードが残る。
右はその指示書。



課題を終えたら、教材に付けた同じ色カードの場にボードのカードを貼る。報告カードを教師に渡して終わる。

朝の「職業」での取り組み図

課題の流れは左から右



ワークシステムによる 自立した学習の成立



- 6月第3週に定着。
毎日30～40分の
自立した課題学習

環境の構造化

視覚的に示すことで、自分で片付けられるようにする。

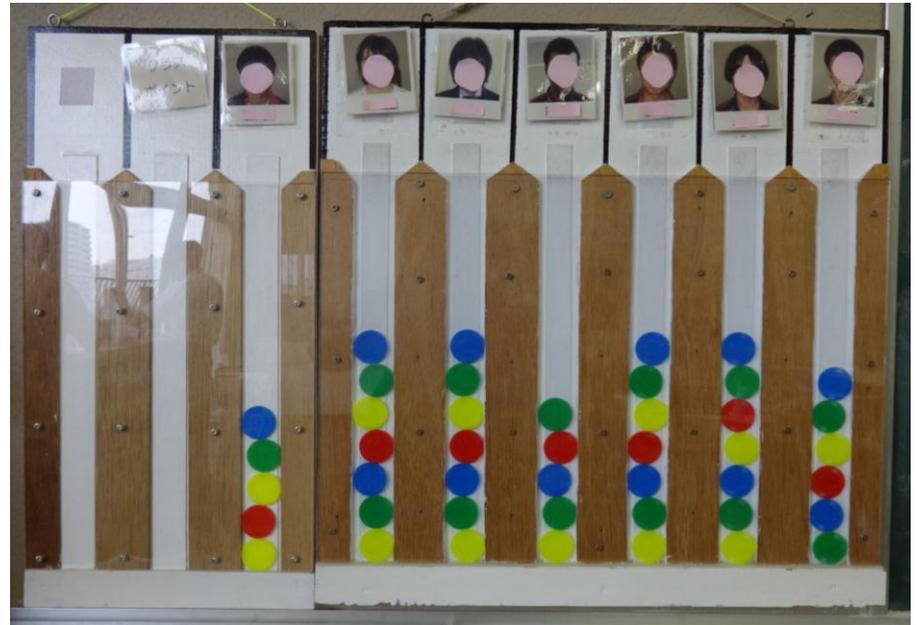
- 教材の写真とのマッチング
- 教材の位置を黄色いテープで示す



トークンボードで達成後の評価

評価を具体物で視覚化

- 評価をコインでフィードバックする
⇒コミュニケーションの方向性と相互関係の理解
- 社会生活(集団生活)における、人間関係の土台構築の過程を視覚化
⇒「やったら評価される」
ことによる学級集団の
人間関係の安定



④ワークシステムをiPhoneの活用へ

6月第2週～

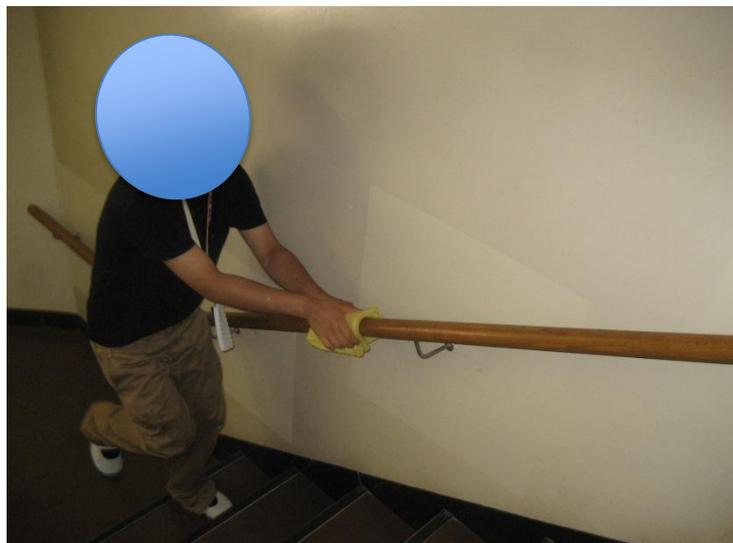
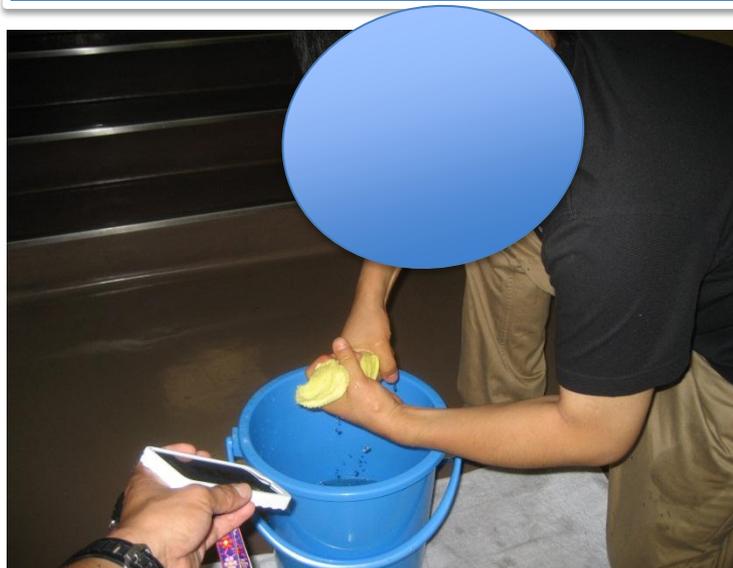
就労移行支援 = 「作業学習」

「タオルたたみ」



- タオルをもつ位置や方向の間違いが多く、アプリの写真カードをモニターで拡大...

アプリ「たすくステップス」の活用



「階段の手すり拭き」 (活用の初期)

- 水に濡れるとiPhoneが壊れてしまうため作業工程の一部で全く使えない
- 不安定な時に壊してしまいそうになる



iPhoneの活用方法の改善

- 防水カバーを付ける。
(衝撃にも強い！)



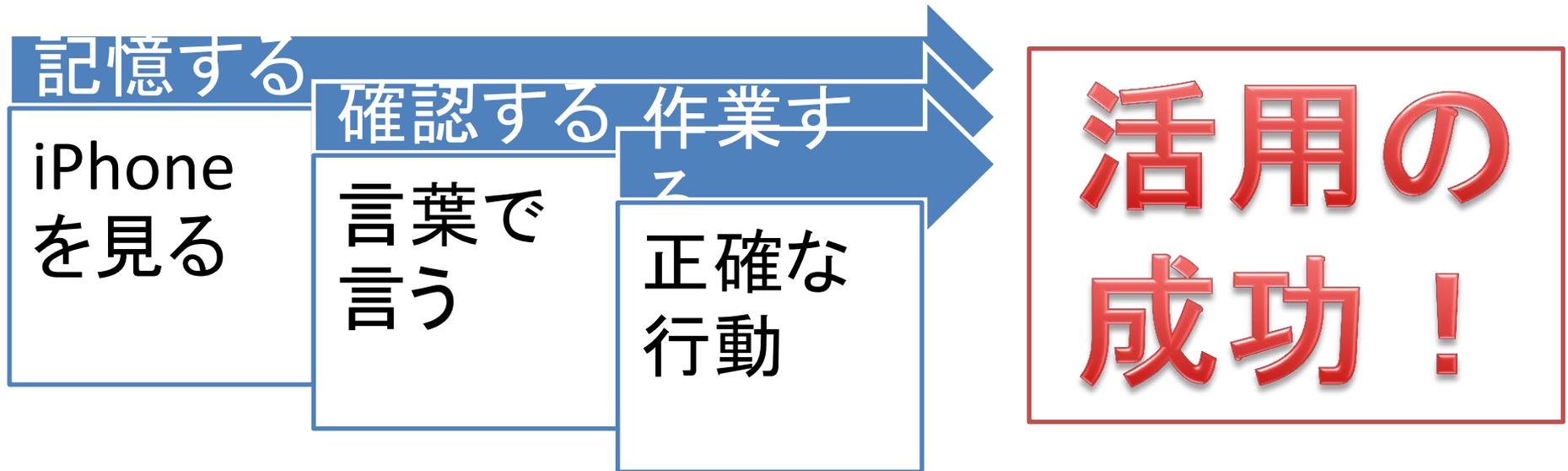
- 工程表として、手すり拭きの**事前に提示**し、
その後は携帯せずに作業する



従来のカードによる工程表と**同じ提示方法**

iPhoneの活用はシンプルに

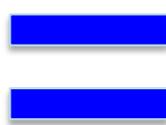
自分で考えながら作業する



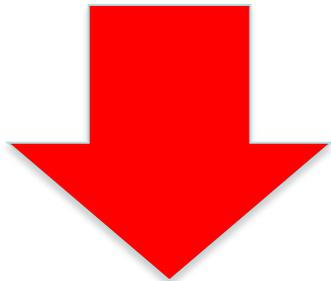
指示や言葉かけの必要なし！

ワークシステムとして考える 作業学習の「自立」

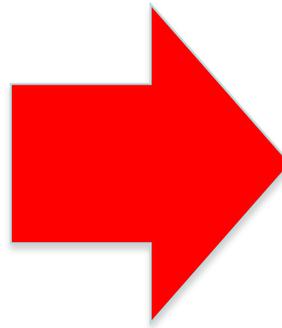
「タオルたたみ」
「手すり拭き」等



ワークシステムボードの
中の「色カード」の一つ
(つまり一つの個別課題)



一つ一つの作業工程
の達成につながりをつ
け、終了したら報告す
るシステムへ



ワークシステ
ムボードとし
てiPhoneを活
用する必要

iPhoneを活用しての**変化** 手すり拭きを通じて

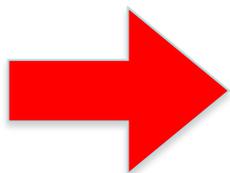
まったく同じ
「手すり拭き」
の作業工程

iPhoneの
活用

時間がかかる
うまく活用でき
ていない！？

よく考えてみると・・・

iPhone活用以前は、言葉かけによって生徒の行動を生起させ、教師のペースで促しながら作業していた。

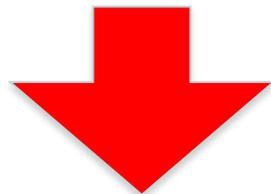


受動的な学習をさせていた事実の証明

iPhoneを活用しての気づき

主体的な行動が始まれば、当然時間はかかる。

- 日常の指導が、生徒に「指示待ち」の状況を作っていたのではないか・・・
- 生徒の「自立のための効率性」ではなく、時間割の中で「効率的に指導を進める」ための教師側の事情による指導だったのではないか・・・



自分でiPhoneを操作することが「自立」の大前提
(教師が操作して示すことは「指示待ち」の行動を強化する)

今後の課題

iPhone =

視覚的な理解を促す
効果の高いツール

- 活用方法、内容、提示するステップや量などによって理解に差
- 示し方によっては誤学習をまねく危険性

効果的に活用するための距離感

今後の自立した生活時間を増やすために

- 見通しをもつ
 - ➡ 予定の変更等にも対応する **スケジュール管理**
- 作業学習での活用の発展
 - ➡ 工程表から **ワークシステム**として
- コミュニケーション
 - ➡ **コミュニケーションツール**として
- 余暇スキルの拡充
 - ➡ 「何もしない時間」の **不安の解消**